

特集 1

お祭りに 行こう

今も昔も

お祭りは日本人の心をくすぐる、大切な瞬間。

無形民俗文化財にも指定されている獅子舞やお囃子、威勢のいい祭り衆で町が活気づく神社のお祭り、街が一つになる熱いお祭り、一挙にご紹介。



01 町田の 無形民俗文化財

町田市には祭囃子や獅子舞、粉屋踊り、地芝居、神楽など様々な民俗芸能が存在している。中には16世紀に始まり400年以上にわたり、地域で受け継がれてきたものもある。

現在、町田市で無形民俗文化財に指定されているものは5つ。いずれも地域に息づく大切な伝統として親しまれ地域住民や保存会によって脈々と継承されている。これら獅子舞やお囃子は奉納されている神社の例大祭等で見ることが出来る。



1. 獅子から振り落とされる五色の御幣を拾うと、1年間無病息災・家内安全だといわれる。2. 神輿の担ぎ手が着る白衣は白鳥を形どったもの

矢部八幡宮獅子舞 9月16日(日)

元亀・天正年間(1570年代)に始まったと言われ、木曾や矢部の例祭、奥宮開扉の大祭などで奉納されてきた獅子舞。獅子宿から神社境内までの道行と、木曾町祭礼での神輿巡幸の先導の役目をするのが特徴。

矢部八幡宮 町田市矢部町2666



丸山獅子舞 8月19日(日)

元和三年(1617年)、長蔵院が相原の諏訪神社の再興を図ったとき、村民が五穀豊穡と氏子安泰を祈願し奉納したとされる。「花がかり」と言われる獅子舞で二頭の雄獅子が牡丹の花かげに隠れた一頭の雌獅子をめくって争いをはじめ、仙人が解決する。昨年5月には奉納400年記念行事も執り行われた。



獅子舞は地元の保存会が中心となり、地域の小学生などが舞い、次世代へ受け継がれている。諏訪神社 町田市相原町1743

金井獅子舞 9月16日(日)

寛文年間(1661年~1672年)に、村の平穩無事と五穀豊穡を祈るため、八幡神社に奉納したのが起源と伝えられる。獅子は、一匹の雌獅子を二匹の雄獅子が取り合い、河童が行可役をするという三匹獅子舞形式。



1. 天狗や河童が登場するのも金井獅子舞の特徴。2. 正月には獅子舞と河童の面が本殿に飾られる

金井八幡神社 町田市金井町2686



三ツ目囃子 7月28日(主)

江戸時代、將軍吉宗が若者の健全な娯楽として推奨していた江戸囃子。その一つ、三ツ目囃子が小山町に伝えられたのは江戸時代後期とされる。幕末から明治維新に際し、一時下火になったが、明治12年に復活。現在に至るまで盛大に行われ、昭和28年には高松宮杯を受賞。



装飾も豪華な山車で小山町の三ツ目地区を練り歩く

山王山日枝神社 町田市小山町3747

囃子 はやし

天保年間(1830年~1843年)頃に伝わった、江戸神田下町囃子の系統をひく祭囃子。笛・鉦・太鼓による五人囃子で、舞は獅子・白狐・ひよっこ・おかめ・狸などが曲に合わせて踊り、演奏を盛り上げる。町田市以外の多くの地域でもこのスタイルが伝わっている。



例祭の日には山車の上で約8キロの道のりを移動する

INTANGIBLE CULTURAL ASSETS